



中期財政計画の 状況について

市では、「留萌市中期財政計画（平成28～32(令和2)年度）」に基づき、健全で持続可能な財政運営を推進しています。

問 市・財務課 TEL 56-0025

「留萌市中期財政計画」5つの財政規律

▼留萌市中期財政計画では、規律ある財政運営を進めるために5つの財政規律（基準）を設定し、年度ごとに現状を分析して計画の進行状況を確認しています。

令和元年度の実績

◎財政規模に対する連結実質赤字額（各会計の差引額の合計）の比率です。ただし、合計値が黒字の場合は「実質赤字額なし」となります。

(1) 連結実質赤字比率

【令和元年度決算】

会計名	収入	支出	差引額
一般会計	137億5,351万円	134億6,140万円	+ 2億9,211万円
	(形式収支－翌年度繰り越し分＝実質収支)		① + 2億9,107万円
国民健康保険事業	20億1,420万円	19億8,423万円	② + 2,997万円
後期高齢者医療事業	3億5,810万円	3億5,671万円	③ + 139万円
介護保険事業	22億3,755万円	21億6,693万円	④ + 7,062万円
港湾事業	1億7,504万円	1億7,504万円	⑤ ± 0万円
下水道事業	15億2,058万円	15億2,058万円	⑥ ± 0万円
水道事業	3億7,244万円	1億0,275万円	⑦ + 2億6,969万円
病院事業	14億2,343万円	18億6,433万円	⑧ - 4億4,090万円

差引額(①～⑧)の合計値 + 2億2,184万円

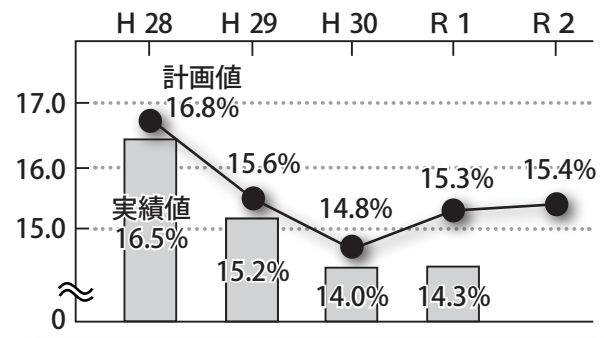
【令和元年度連結実質赤字比率】

連結実質赤字比率 (%)	連結実質赤字額
実質赤字比率なし	実質赤字額なし (黒字のため)

令和元年度は、病院事業会計で赤字となっているものの、合計値が黒字となっていることから、連結実質赤字比率は生じていません。

(2) 実質公債費比率

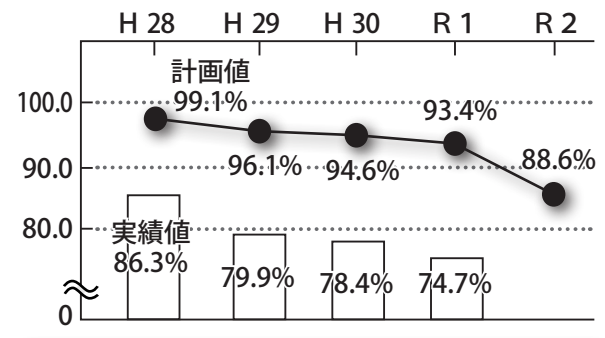
◎財政規模に対する一般会計で負担する地方債などの返済金の比率です。



令和元年度は、健全な財政運営を進めた結果、計画どおり国が定めた健全団体水準(25.0%未満)を維持しています。

(3) 将来負担比率

◎財政規模に対する将来負担する実質的な負債残高の比率です。



令和元年度は、健全な財政運営を進めた結果、計画どおり国が定めた健全団体水準(350.0%未満)を維持しています。

(4) 市債発行額

◎留萌市中期財政計画では、市債発行額を「各年度投資事業10億円目安(過疎対策事業債ソフト分を除く)」と定めています。

令和元年度は、投資事業10億円と過疎対策事業債ソフト分1億円の目安に対し、合計7億780万円を発行しました。

(5) 財政調整基金残高

◎留萌市中期財政計画では、標準財政規模比20%(令和元年度は14億9,198万円)の残高確保を目標としています。

令和元年度の残高は、地方財政法に基づく積み立てを実施していますが、平成30年度に実施した病院事業会計への3億円の追加繰出金などにより、目標額よりも4億623万円下回る10億8,575万円となっており、目標額を上回る残高を確保することができませんでした。

次期中期財政計画と、今後の財政運営

▼留萌市中期財政計画は、令和2年度で終了します。このため、市では現在、令和3年度予算編成と併せ、計画の策定作業を進めています。

次期中期財政計画は、国から今後示される地方財政計画をはじめ、コロナ禍における市税の状況や、市立病院の経営状況を踏まえ、今後5カ年の財政見通しの作成や、財政規律の設定を行っていきます。

次期中期財政計画については、本誌4月号で皆さんへお知らせする予定です。

市では、少子高齢化や人口減少が全国的に進む時代の流れを見据え、これからのまちづくりと健全な財政運営のバランスを保ちながら、限られた財源の中で最大限の効果を出すため、実施している全ての事業の検証や、今後の公共施設の在り方について検討を進めていきます。

また、令和3年度に改定を予定している病院改革プランでの支援内容の協議を踏まえながら、持続可能な財政の運営に努めていきます。